

---

# だから私は魔法使いになりたい

神城 瞬夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

だから私は魔法使いになりたい

### 【NZコード】

N4462D

### 【作者名】

神城 瞬夜

### 【あらすじ】

少女は言う。この世界はとてもなく残酷で、誰も困っている人を助けてはくれない、と。絶望に満ちた声で言う。だから助けなんて求めてない、と。だから魔法使いになりたい、と。なんてかっこよさげなことかいてますがSSなので。

(前書き)

とてもなくつたない作品です。原稿用紙換算で10枚に足りないくらいだと思います。

私は魔法使いになりたかった。

現実味がない夢だということはわかっている。なれるはずがないこともわかっている。それでも、私はそう願わずにはいられない。

それしか、誰かを救う方法はないのだから。

いつも、いつだつてそう。誰も、助けなんて来ない。

家族が事故で死んだとき。親類のみんなは私を取りたくない、といつっていた。

私自身が事故にあつたとき。通りかかる人はみんな私を見るけど、誰も助けてくれなかつた。

ここは、そういう世界なのだから。

誰も人を助けることなんてできない。そんな余裕なんてない。

だから魔法使いに私はなりたい。こんな私を救うために。

友達が目の前で不良たちに殴られていたとき。私には助ける勇気なんてなくて。助けるための力もなくて。私は、一目散に逃げてしまつた。

だから、魔法使いになりたい。誰かを助けるために。

でも、誰かを救うために私を助けてと、そんな祈りをしてみても、結局のところ私を助けてくれる魔法使いなんて現れない。現れないから、私も誰かを救うことができない。

結局は、そんな世の中。

私に向かつて、不良がほえている。ここは裏路地。誰も助けにな

んて来ない。裏路地じゃなくても、きっと誰だつて助けてはくれない。

だから、私はあきらめた。助けて、ともやめて、ともいわない。景色がゆれた。吹っ飛ばされた私は、地べたに這い蹲ることになる。そして、そんな私を不良たちは鋭い濁つた目でにらんでくる。

救いはこない。そんなことはわかつていい。だから、魔法使いになりたい。救いがなくても、自分の力で道を作り出せるように。

倒れている私を、不良のひとりが踏みつけた。もういい。殺すなら殺して。こんな世の中にはうんざり。

それなのに

不良たちの向こうがわに、まるで私を助けようとするみたいに、一人の少年が立っていた。

一人の少年が、不良たちをにらんでいた。見るからに氣弱そいで、そして弱そうな少年だった。すらっとした体。背も小さい。服はきれいだから、たぶんまともな家庭で育つたのだろう。

きっと、私を助ける力なんてない。だから。私は少年に言おうと思った。力もないのに、そんなことはしなくていい、と。

それなのに

やめろよ、と。少年は力強く叫んだ。力がなければ誰も助けられない時代で、おそらく力もないだろ？ その少年は、それでも、私を助ける、そのためだけに。

少年は私のために、慣れていないである？ ケンカを不良たちに吹

つかけた。なぜそんなことをするのか、私にはわからない。勝てるわけがない。不良たちは一人の少年をたこ殴りにする。

そう、力なんてないのだから仕方がない。

やがて、不良たちは少年を殴ることで満足したのか、どこかへ去つていった。

私はようようと立ち上がり、倒れている少年を見下ろす。あざ笑つてやううかと思つた。何でそんな馬鹿なことをしたんだ、と。

知らないうちに私はつぶやいていたのだろう。少年がそつと顔を上げて、小さく答えた。

そうするしか、助ける方法がないからだよ……、と。自分を犠牲にしないと君を助けられないから、と。

力がないのに、そんなことをしようとするのが馬鹿なの。私は、助けてもらつた相手にそつぶやく。

そんな風に言つ私に向かつて、少年は弱弱しく、しかし心をこめて言つてくれた。

それでも、君は助かつただろ？ だつたら、力なんてなくついいじやないか 少年のその言葉はまるできれいごとで、力があつたほうがいいにきまつていてるのに、けれど力がないからとあきらめたりせずに、自分のできるだけのことをして私を救おうとしたなんだか、とても嬉しい言葉だった。

たとえ馬鹿でも、無謀でも、自分のために戦つてくれた。なんだか、それがとても嬉しい。

この世界では、力がなければ何もできなくて、助けたいと願つても力なんてなくて。救いのこないまま、絶望へと突き落としておいで。それなのに、

声に出せなかつた『助けて』という言葉を聽きつけて、力もないのにこの少年は私を助けようとして。

魔法使いでもなければ、できないと思つていたけれど、

この少年は、たとえ力なんてなくても、私にとつては救いの魔法使いで。それならば、力なんてなくても、魔法なんて使えなくても、

誰かの魔法使いには、なれるかもしねりない。  
なりたい、じゃない。だから、でもない。

私は、誰かのための魔法使いにならうと思つ。この少年のよう。

(後書き)

よろしければ、読んだ感想をお聞かせください。

<http://indexharuhi.blog20.fc2.com/> HPです。応援よろしくお願ひします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4462d/>

---

だから私は魔法使いになりたい

2011年1月13日07時23分発行